

## 「令和2年度群馬県立自然史博物館活動の評価」について

群馬県立自然史博物館専門委員 中村修美

評価委員会にてご説明いただいた内部評価結果に基づき、所見を述べさせていただきます。

まず、令和2年度はコロナウィルスというこれまでに経験の無い事態に直面しました。その様な状況の中で、総体として博物館活動をしっかりと進めていると思います。

令和2年の夏や初冬からコロナウィルスが蔓延し、地域によっては緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の措置がとられました。それにより、博物館も臨時休館したり、入館も事前予約制や定員制にしたりということがありました。また、各実施事業においても、様々な対応が求められ、実際中止になった事業も多かったと思います。それでも、ZoomやSkypeを用いた講演会や講習会の実施、少人数の講座、対面での展示解説の停止、顕微鏡等の非接触型装置への更新など、多様な工夫がなされています。

コロナ禍は今年度も引き続いていきますし、いつ終息するかは分かりません。その様な状況であり中途ではありますが、これまでのコロナウィルスへの対応や事業の工夫などの詳細な情報を把握している段階で、どのような対応を取ったのか、その効果はどうであったか、あるいは別の方策が考えられたかなどを、まとめておく必要があると思います。また、それをどのような形であれ、今後の参考のために公表しておいていただきたいと思います。これは他の館の参考にもなると思います。

コロナウィルス対応で内容を工夫した事業展開を進められています。コロナウィルスが終息した後でも、工夫して行った事業方法は今後も有効だと思います。博物館のキャパシティーの問題もありますので、工夫をどのように取捨選択していくかを考える必要があると思います。

次に、「令和2年度項目別実施結果」では、昨年度のコメントを考慮していただき、目標値の項目を設定していただきありがとうございます。評価の基準が分かりやすくなったと思いますが、気になる点があります。

「R2年度目標値」に「実績値を記入」と「随時」の記述がありますが、この記述は目標値では無いと思います。

項目には博物館の自助努力で達成できる項目と他からの支援・依頼等によるものがありますので、すべてを同列には語れません。「実績値の記入」は、他からの支援・依頼に等による項目だと思いますが、例えば、過去数年間のデータを参考に設定したら如何でしょうか。あるいは、目標値の設定が非常に困難な項目ならば、特に設定しないのもあり得ると思います。その場合には、どのような理由によりその様な対応になったかを明示しておく必要があります。

「随時」の項目は、自発的な活動内容が多く含まれています。この数値を把握するのは

大変だと思いますが、博物館活動としては把握しておくべきものだと思います。是非、把握する方法を検討してください。

目標値ですが、必ずしも前年の数値に対して増加させる必要はありません。博物館の方針や持っているキャパシティーを考慮して設定していただければと思います。

いずれにしましても、このコロナウィルス禍の中で工夫をされ、活潑に活動されていると思います。今後も継続されることを期待します。